

2021年度畜産物価格等決定に関する委員長談話

北海道の酪農・畜産は、相次ぐ大型国際貿易協定発効による農畜産物の市場開放やコロナ禍により、厳しい環境下に晒されている。このため、組織は本道の酪農・畜産農家の生産意欲を持続できる2021年度畜産物価格及び関連対策の決定と家族酪農の支援強化などを求め運動を展開してきた。

このほど、2021年度畜産物価格等が決定し、加工原料乳生産者補給金単価が引下げ、集送乳調整金単価が引上げとなり、今回の算定にあたっては単価の上げ要素が少ないとされる中、両単価合計で現行水準が維持された。しかし、酪農家の生産意欲を高めるという観点からみると不十分な結果だと言える。今後は次々と発効される貿易協定やコロナ禍等の影響を鑑み、酪農経営の更なる体質強化が図られるよう、コスト変動要素に加えて中長期的に内部留保が可能となる算定が求められる。

一方で、関連対策等においては、新たな食料・農業・農村基本計画や酪肉近で示された中小規模層の酪農・畜産農家への支援が打ち出されており、生産数量目標達成に向けての更なる生産基盤の強化を強く後押しするメッセージだと受け止めている。今後は各事業の実効性が確保されるよう、生産者の視点に立った事業内容とすることが必要である。

よって、組織は家族経営を中心とした多様な酪農・畜産農家を守り育て、規模拡大だけでなく現状維持志向の生産者の視点も含めた基本政策の確立や各種関連施策の拡充などを求め、更なる運動を展開していくこととする。

2020（令和2）年12月10日

北海道農民連盟 委員長 西原正行